

～韓国人が最も飲んでいるお酒とは？～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)

大江 敏彦

年度の変わり目といえば、送別会や歓迎会のシーズンですね。お酒というテーマを選んだので、筆者にとってさぞかし得意な分野かと思われそうですが、「左党」というよりは「砂糖（甘党）」で、お酒はほとんど飲めません。

さて、去る12月27日の中央日報の記事によると、韓国人が1年間に消費するお酒の量は、ビールの比率が最も高く、2013年ベースで1人当たり148.7本、次いで焼酎62.5本、そして伝統酒^(※注1)29.4本と続き、4位以下の洋酒2.7本やワイン2.2本^(※注2)を大きく引き離していることが、農林畜産食品部と韓国農水産食品流通公社が発表した「2015加工食品市場詳細の状況調査」により明らかになりました。

確かに、韓国では焼酎とビールを置いていない食堂は皆無と言ってもいい程、ポピュラーな飲み物です。大人数でわっと盛り上がる会食では、ビールに焼酎を少し足して飲む「ソメ^(※注3)」が一般的で、この2種類のお酒の消費量が多い調査結果にも納得できます。また、韓国ではいきなり焼酎から飲みはじめる方も多いように、早い段階で強いお酒を飲み、その後2次会でチキンや乾き物をつまみながらビール、そしてさらにコーヒーという順番で、日本の「とりあえずビール」からおもむろに日本酒や焼酎、そしてウイスキーやカクテルなどと度数が上がっていく雰囲気とは逆のパターンが多く、ここにも文化の差を感じます。

さらに、この調査結果では、酒類消費の女性化もキーワードとして挙げられます。酒類全体の消費量が増えている中、焼酎の消費量は減少している一方で、ビールやワインの消費量が増加しており、低度数の酒類へシフトしている傾向がみられます。ビールについても、炭酸の強いラガービールから味わい豊かなエールビールへの嗜好の変化もみられ、輸入ビールの割合も伸びています。また、昨年新登場した柚子やグレープフルーツ味などの「果実味焼酎」は、口当たりの良さで女性を中心に一大ブームとなったことは記憶に新しく、日本でのかつてのチューハイブームを彷彿とさせます。

なお、韓国の酒文化の一つに「モイム」が挙げられます。趣味や志向の合う人々が様々なスタイルで会食をしながら親睦を図る集まりのことで、私も日本や日本語に関心の高いモイムに参加し、お酒を飲みながら親睦を深めたことも、楽しい思い出の一つになっています。

※注1：主としてマッコリのような若干酸味のある濁り酒を指す。

※注2：消費量を比較しやすくするため、1本当たりの容量を360mlに統一している。

※注3：焼酎(ソジュ)とビール(メクチュ)の両方の頭文字をとって「ソメ」という。

成人1人当たりの年間酒類消費量の推移 (単位：本=360ml)

区分	2010年	2011年	2012年	2013年
ビール	139.8	142.6	146.9	148.7
焼酎	66.4	65.1	66.3	62.5
洋酒	2.7	2.6	2.6	2.7
伝統酒	33.7	36.5	34.9	33.0
ワイン	1.8	1.8	2.0	2.2
その他	0.5	0.5	0.6	0.7

(資料：農林畜産食品部, 韓国農水産食品流通公社)



▲ボランティア活動後の夕食会にて。まずはビールで乾杯。